

## 客観的判断材料としての行政評価

住みたい富山研究所 谷口新一 TANIGUCHI Shinichi

## 1、はじめに

労務人事管理における「評価」は、事実を確認するという概念で使われている。行政評価についても同様で、評価により自動的に何かが導き出されるわけではなく、客観的判断材料といえるものである。結論ではなく、スタートである。富山に密着した私なりの実践から行政評価を考える。

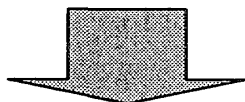
## 2、行政評価とは

行政評価は、行政活動における事実を確認し課題を発見するツールである。行政活動についての客観的判断材料を内部および外部に明らかにするためのツールである。

## 3、行政評価の必要性

行政の問題点

- ・ 予算主義
- ・ 前例主義
- ・ 減点主義
- ・ 勝手主義
- ・ 閉鎖主義

Value for Money

(税金の払いがい、 $\text{outcome}/\text{input}$ )

- ・ 経営主義(効率性の向上)  
 $\text{output}/\text{input}$
- ・ 顧客主義(効果・効用の向上)  
 $\text{outcome}/\text{output}$
- ・ 公開主義(アカウンタビリティの向上)

## 4、全国的な状況

総務省によれば、平成13年7月末現在で、鳥取、島根、宮崎、鹿児島を除く43都道府県とすべての政令指定都市で導入または試行されている。市区町村では290、検討中を含めると全市区町村の56%となる。また、国は平成13年1月より全政府的に実施している。

## 5、富山県内の事例

富山県は今年試行実施している。評価の観点は、目標達成度、必要性、実施主体の妥当性、実施方法の効率性、受益と負担の公平性の5項目である。各部局長が1次評価(第一者自己評価とでもいえるだろう)し、各部局の次長で構成する県政策評価連絡会が全庁的な観点から2次評価(第三者自己評価とでもいえるだろう)を行う。結果は公表される。県内市町村では、富山市、高岡市が実施しており、氷見市、小矢部市が試行中である。富山市も高岡市も担当部局による第一者自己評価のみであり、公表もされない。ただ、富山市の場合は、相対評価を実施しているのがユニーク(図1)。相対評価は万能とはいえないものの、自己評価の限界性の除去に有効である。

総合評価(5項目合計)	
A(20~25ポイント)	30%
B(14~19ポイント)	50%
C(5~13ポイント)	20%
各項目(a:5ポイント, b:3ポイント, c:1ポイント)	

図1、富山市の相対評価

## 6、一般的な評価イメージ

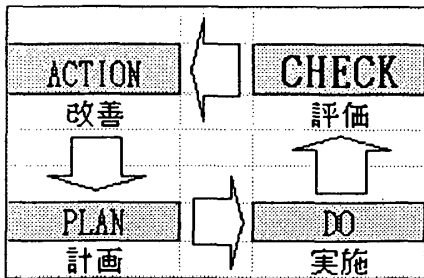


図2、PDCAサイクル

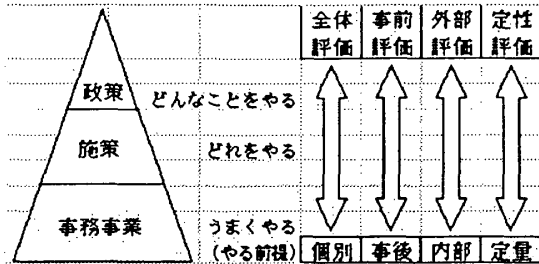


図3、行政評価分野と評価特性

## 7、これからの行政評価

行政評価は住民や地域社会とのコミュニケーションツールである。結果を成果とするには住民や地域社会とのコミュニケーションが大事である(図4)。

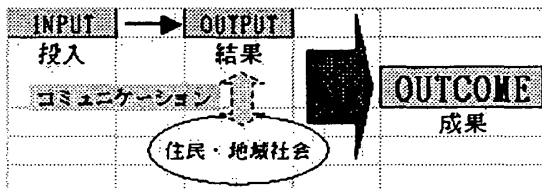


図4、結果と成果

富山市や高岡市の場合、評価を公開していない。これは、行政自ら住民とのコミュニケーションを閉ざしているということで、成果を重視する行政評価を自ら機能低下させている原因でもある。アカウントビリティ(説明責任)を責務と感じるより、住民といっしょに地域の問題を解決していこうとする協働とパートナーシップのコミュニケーションツールとして活用すればよい。

## 8、人づくりとしての行政評価

評価とは次につなげるために実施するものである。次につながる改善の知恵を生み出すのは「人」であり、行政における人づくり(職員の顧客志向、職員自身の満足度[ES])のための評価、という観点が重要である。知恵を生み出す職員が育つための評価という視点が重要である。内部評価よりも外部評価が格上であるかのような風潮があるが、外部評価では他人任せになりがちである。「改善」に結びつく人づくりのためには、第1者自己評価を重視すべきである。第1者自己評価では独善的になるなどの弊害が指摘されているが、情報公開と外部評価(住民や地域社会とのコミュニケーション)を総合的に組み合わせることで、行政参加的職員が育ち、より効率的に継続的に成果につながる知恵が生み出される。

		評価者
内部評価	第1者自己評価	実施者
	第2者自己評価	組織内他者
外部評価	第2者評価	住民(顧客)
	第2.5者評価	他自治体
	第3者評価	専門家

図5、内部評価と外部評価(拙者独自概念)

## 9、まとめ

行政評価の本旨は、住民満足度の向上である。住民のニーズや優先順位を知るうえで、AHP手法など、ORに期待される面も大きいと考える。

### 参考文献

- [1] 行政評価ハンドブック 小野達也+田渕雪子(2001.5)
- [2] 行政評価のツボ 新世紀自治研究会(2000.5)